Testing

私は自身の作品の大半を Testing と呼ぶ。各作品の制作は実際に一つの試行として始まるからだ。ゲル電気泳動のような科学的なイメージに着想した作品は、そこに使われる原料が時間の経過と共に日光に反応し、また互いに作用し合いながら生み出すイメージの表情を事細かに見せてくれる。私は一般的に使われる絵具に替わり、自身で作成する深く浸透させたインクや染色剤、染料が複雑に調合された液体を使う。そして、それらは通常の絵具では決して成し得ない事をしてくれる。それは、「変化、偏倚、幾重にも重なった他のレイヤーへの浸透、または異なる性質を持つ構成要素への分離」といった事だ。

伝統的な絵具は安定、不変といった事に主眼が置かれ、コントロールし易いように作成されるのに対し、染色剤や染料といった物は、湿度、重力、時間の経過、紫外線を始めとする多くの外的要因のみならず、それらが接触する他の要素の分子構造にまで容易に影響を受け、時として予期せぬ結果を生む。長年の制作で研鑽を重ね、私は今なお、これらの原料の隠された化学的性質に惹き付けられる。私は各作品に何が起こっているのか、その軌跡を後で辿る事ができるよう作品に直接メモを書き込む。このある種記号のような覚書はサイエンスとアート、その一見異なる両分野に於ける探求の間に存在しうる類似点を提示するためのひとつの形だ。

大半の画家がそうであるように、私も安定、保存を前提とした画材を用いる美術教育を受け、それに適した絵画技法を習得した。SunTests という一連の作品の背景にある元々の制作動機はこれらの経験だ。SunTests の制作は、安定し耐光性のある原料から、変化し易い原料を選別する方法として始めた。通常であればそれら変化し易い原料は使用対象から外れるのかもしないが、私は逆に魅了され、そのような変化がもたらす複雑性や偶発性、非永続性という概念に惹かれていった。

「時間」はともすれば人々が通常考えうる絵画の特性には成り得ないのかもしれない。だが、私の作品を下支えしてくれる実験的な側面やそのプロセスを知ったとしても、まるで琥珀の中の小さな虫にように、アクリルフィルムのレイヤーの中で静かに、時が止まったその一瞬や現象が捉えられた物として作品を見る事に心惹かれないだろうか。しかしその一方で、目にしているのは実は使用された原料が相互に作用し合いながら、長い年月をかけてかすかに変化を続けていく緩やかなスローモーションのような工程でもある。私は大半の色は永続的に残るようにする一方で、ある色は色調の中で変化し続け、若しくは徐々に消失するよう意識的に各作品を制作している。

そのサイズに関わらず、是非作品に近づいてみて欲しい。独特な質感を伴うその艶のあるマットな表面とぼんやりと焦点の合わない、そんな表情をもつ作品は、私達に自然と作品に近づき、眼で何かを捉えようとする事を促す。私は比較対照し、何か予期せぬ変化が起こりうる可能性、状況を作り出すために実験とも言える制作を繰り返す。

ジャック・シャルティエ
BASE GALLERY / MATRIX JAPAN S.A.
103-0025 東京都中央区日本橋
茅場町1-1-6 小浦第一ビル1F
tel : 03 5623 6655 fax : 03 5623 6656
info@basegallery.com
www.basegallery.com